

2015年度 福岡デザイン専門学校 第2回「学校関係者評価委員会」報告書

日 時 2016年3月25日(金) 17:00~19:30

会 場 福岡デザイン専門学校 1F ギャラリー

出席者 佐藤 俊郎(委員長)・家藤 康徳(委員)・品川 武士(委員)・松本 千里(委員)
田代 順三(委員)・安部 浩一朗(委員)・中山 太郎(委員)・鎌田 宏行(委員)

欠席者 明石 理紗(委員)

オブザーバー(学校教職員) 香坂 雅弘・伊場 芳朗・大久保 映介・瀧井 信一郎

開会 挨拶(香坂理事長)

福岡デザイン専門学校現状について(学生募集他)

職業実践専門課程(総合デザイン科)認定報告(認定→官報公示2016年2月29日)

平成27年度認定後、全国で833校2,540学科(福岡県55校180学科)

委員ご紹介 別紙、委員名簿

佐藤委員長 挨拶

議題：福岡デザイン専門学校「2015年度自己評価表」に関する審議・評価

※資料：2015年度学校自己評価表

学校より自己評価表作成の概要説明・・・文章の見直しと今年度に変更を行いました。

評価により、今後の課題が見てきた。対応を行っていく。(香坂理事長)

※下記、基準1から基準11までの、大項目単位の精査・再評価を行った。

- 1.教育理念・目的・育成人材像等
- 2.学校運営
- 3.教育活動
- 4.学修成果
- 5.学生支援
- 6.教育環境
- 7.学生の受入れ募集
- 8.財務
- 9.法令等の遵守
- 10.社会貢献・地域貢献
- 11.国際交流

大項目ごとに確認を行いましたが、別紙【2015年度学校自己評価報告書】の通りで、特に問題になる項目はなく、評価を終了した。

前年からの評価変更になった項目は、説明と審議で、妥当と判断された。

委員の意見

学校の強み 他校の教育状況も情報収集し参考にしていく（外部を見ないと評価しづらいのでは？）

少子化での入学者減→特異性を出して、告知（アピール）が必要

取得資格 デザイン業界で取得できる資格が少ない。

就職先から見たら、器用な学生を望む。昔のスタイルにこだわらない新しい情報と整備（学校）今後、時代に沿った、教育手法を変えていく事も、考える。

ボランティア活動をやっているが、もっと地域に貢献できる事を増やす必要がある。

閉会 挨拶 （伊場校長）

2016年度も引続き、学校関係者評価委員会をお願いしたい。

2015年度「第2回学校関係者評価委員会」総括

2016年3月25日に福岡デザイン専門学校で学校関係者評価委員会が開催されました。その委員会の委員長として評価委員会の総括を記録します。

総括

福岡デザイン専門学校（FDS）の11点検項目に沿って審議を行いました。FDSは、2014年に「職業実践専門課程」の認定を受け、2016年も、総合デザイン科が同じく、認定を受ける等着実に「専門教育」の内容を充実させています。また、大阪芸術大学との連携で、学生の経済的負担を軽減しつつ、4年制大学と同等の教育を受ける環境を整備する等、多角的教育環境の充実に務めています。

今後、改善を目指すべき点として、学校運営において学校規模と運営体制の適切な規模や体制、あるいは職員の能力開発、研修などの実施といった点で、改善が望まれます。また、昨今の経済状況悪化の中で、学生の置かれている就学状況も極めて厳しく、その現状の把握と父母者との連携、適切なカウンセリングなどの対応が望まれます。

財務の状況は、新学年制の導入による、財務改善の効果が表れつつありますが、まだ、改善の途上にあり、今後も、学生数の確保等を確実なものとして安定した財政基盤の構築が望まれます。

国際交流に関しては、中国、台湾等の学校との交流を通して、受け入れる学生数も確実に増加して、今後、さらに海外の連携地域を拡大し、授業の互換性を高める等、専門学校としての特徴を生かした努力が望まれます。

今後、少子化の影響で学生数の減少が顕著になり、学校運営も楽観できませんが、「デザイン」の王道を活かした、特徴ある専門学校として福岡での存在感を増していけることを期待します。

学校関係者評価委員会 委員長 佐藤 俊郎

以上